



やまびこ

大船渡市立盛小学校
令和4年度 NO.9
(通算 1029号)
令和4年7月12日発行

●すすんで勉強する子ども ●おもいやりのある子ども ●心も体もたくましい子ども

“確かな学び” を育むために・・・

タブレットを使って
学び合う子どもたち



今回は、ちょっと面倒な話（堅い話）をします。それは、おうちの方々が仕事をする中で“学び”を継続しているのと同様に、私たち教師も学び続けているという話です。

子ども一人ひとりがそれぞれの個性や能力を伸ばして、心豊かにたくましく生きるための基礎を培うことは学校教育の重要な役割です。そのために教師は、絶えず“研究”と“修養”に努め（ときには家庭を犠牲にすることも・・・）、実践的な指導力を発揮できるようにすることが大切です。その“研究”と“修養”を学校内で推進するのが『校内研修』であり、『校内研究』という場になります。

■校内研究会■

校内研究とは、学校の実践上の教育課題を取り上げて研究主題を設定し、教師が共同で取り組む研究活動を指します。

令和4年度盛小学校の研究主題は・・・

「確かに理解し、数学的に考える 子どもを育てる算数科授業」



4年生の研究授業

少々回りくどい表現ですね。

要するに「算数の授業で、学習課題に対して、式や図、グラフなどを上手に使いながら、順序よく筋道立てて考え、その考えをしっかりと

説明できる子どもを育てる。自分で説明することで、より“確かな学び”の定着を図る。」ことを目標としているということです。

■授業研究会■

その目標に向けて“研究”“修養”する手立てのひとつが年間に数回行われる『授業研究会』です。各学級担任が学校の研究計画に則って、自ら研修を深め、その学びを実際の授業にどのように生かしているのか、今後どのように研究を進めたらよいかを検証するのが『授業研究会』です。

今年度、第1回授業研究会は6月30日（木）に行われました。授業を提供したのは、盛小学校の研究主任でもある4年担任の小林由美先生です。

何事もそうですが、最初というのは辛いものです。参考とするものはありませんし、まわりから何を言われるかも想像できません。ましてや今はこのような状況ですから、授業を参観する先生方はマスクを着けていて表情が分からず、目だけがやたらに怖く見える・・・。

実際の授業はとても良い授業でした。

小林先生は普段どおりに落ち着いた雰囲気です。授業を進め、子どもたちは、先生の発問や指示にしっかりと耳を傾けて、学習に集中している様子が伺えました。

この授業では、個々のタブレットや電子黒板が効果的に活用されました。

「世の中の流れに一番遅れているのは学校だ。」と言われることもありますが、今後ますます情報通信技術の効果的な活用（ICT教育）についても研究を進めて、数学的に考える子どもの育成をめざしていきます。

盛小学校ホームページ
(ブログ) 携帯サイト



大谷翔平選手と“ゴミ拾い”

6月28日(火)の全校朝会では、電子黒板に文章や写真などを映しながら話をしました。この日の私の話のタイトルは『大谷翔平選手とゴミ拾い』です。子どもたちは、電子黒板に大谷選手の写真が写されたときは、とても関心がありそうな表情をしていましたが、「ゴミ拾いの話です。」と言うと、「どういうこと?」というようなげんごんな顔をしていました。この全校朝会での話の概要は右のとおりです。

実はこの話の最後に、私は5年生と6年生に問題を出しました。その問題とは・・・

問題

なぜゴミを拾うと運勢が上がるのか。その理由を考え、あなたの考えを説明してください。

難しい内容です。

5・6年生の子どもたちに用紙を配り、その用紙に自分の考えを書き、校長室前に置いた“黄色の郵便受け”に入れてもらうことにしました。



その“黄色の郵便受け”に入れられた子どもたちの考えをいくつか紹介します。

今日は、岩手県出身のスポーツ選手、大谷翔平選手の話します。大谷選手は、アメリカのプロ野球で『打って』『投げて』大活躍しています。

その大谷選手が大活躍した去年、大谷選手のある行動がとても話題になりました。それは…**ゴミ拾い**です。

ここでもゴミ拾い… あそこでもゴミ拾い…

試合中もゴミ拾い…

球場のゴミを拾うその大谷翔平選手の姿を見たアメリカの人たちは…

「大谷選手は、野球だけではない。人間としてすばらしい。本当のヒーローだ。」

と褒め称えたのです。

では、大谷選手は、いつからゴミを拾うことを考えていたのでしょうか。

大谷選手が高校1年生のときに、自分の将来の目標と、その目標達成に向けてがんばることや大事にしたいことを書いた『目標達成シート』があります。そのシートの真ん中には、一番の目標が書かれてあります。その一番の目標は、プロ野球のドラフト会議で8球団から1位指名されることです。

その目標のまわりに、目標実現のためにがんばることや大事にすることが8つ書かれてあります。その8つの中のひとつが「運」、運がいいとか運が悪いとかの「運」、『運勢』です。

さらに、その『運勢』を上げるためにがんばることや大事にすることが8つ書かれてあります。そのうちのひとつが**ゴミ拾い**です。実際に、大谷選手は試合中でもグラウンドに落ちているゴミを拾っています。

その大谷選手は、自分に注目してほしいと思ってゴミを拾っているわけではありません。誰かに褒めてほしくてゴミを拾っているわけではありません。実は、**“ゴミを拾うと自分の運勢が上がる”**と考えているのだそうです。

— 以下省略 —

5年 鈴木幸愛 さん -----

ゴミ拾いは“良いこと”。大谷さんはそれをしっかりやっているのだから、自分にも“良いこと”が返ってくる。

5年 鈴木陽乃 さん -----

良いことをすると、自分にも良いことがあるから。

5年 石橋花菜 さん -----

良いことをすると、自分に返ってくるから。悪いことをすると、後からバチが当たる。

6年 三浦咲彩 さん -----

良いことをすると、その良いことが自分に返ってくると考えたから。地球にも人にも良いことをすると、優しい心が持て

るようになるから。

6年 佐々木侑璃 さん -----

良いことをすると自分に返ってくるように、ゴミ拾いをして自分に返ってくると思ったから。

6年 鎌田千翔 さん -----

ゴミを拾うことで、野球の神様が何かいいことを与えてくれるから。ゴミを拾うことでみんなから応援され、たくさんかつやくできそうだから。

6年 河野太旺 さん -----

—(前略)—ゴミを拾って良い人だと思われる。運勢は、礼儀、思いやり、信頼される人間などが上がるから。

大谷選手は、このゴミを拾う行為を「他の人が捨てた運を拾っている。」と表現したそうです。

“運”とは何でしょう。辞書によれば、「その人の意思や努力ではどうしようもない巡りあわせ」とあります。ところが、大谷選手の“運”の捉え方は、全く違っていると感じました。彼は、“運”は努力によって引き寄せることができるものだと考えているのだと思います。“運”は偶然ではなく、必然の産物だということなのでしょう。そして彼は、実際にそのように行動をしているように見えます。


